

第1類

文学部（通信教育課程）第1類では哲学を主とし、幅広い専攻領域を扱っていますが、学生は、自らが取得を希望する学位の専攻分野（学士（〇〇）を指す）に基づいて卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第1類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士（哲学）：哲学専攻領域、倫理学専攻領域

学士（美学）：美学美術史学専攻領域

学士（図書館・情報学）：図書館・情報学専攻領域

学士（人間関係学）：社会学専攻領域、心理学専攻領域、教育学専攻領域、人間科学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの学位において、専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目は次の通りです。

学士（哲学）

[哲学専攻領域]

哲学専攻領域では、以下の諸点を重点項目とする。所定の課程を修了し、以下の要件を満たしたと認められる学生に、学士（哲学）の学位を授与する。

1. 古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な論理的思考力を身につけていること。
2. ディスカッション・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証を自分の言葉で展開できるだけの論理的表現力を身につけていること。
3. 人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識（諸科学）、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的思考を行うことができること。
4. 変転めまぐるしい現代社会の只中にあっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

[倫理学専攻領域]

倫理学専攻領域では、古今東西の思想家たちとの対話を通じて人間の生き方を探究すること、思想家の精神的創作活動の場としての文化の本質を問うこと、そして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直すことを理念とした教育を実施し、以下の諸点を重点項目とする。

所定の単位を修得し、卒業論文を執筆・提出し合格した学生に対し、下記の能力があるものと認め、学士（哲学）の学位を授与する。

1. 人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論に関する基本的な知識を習得している。
2. 現代社会の問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直すことができる。
3. 倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。
4. 人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、それに対する解答を首尾一貫して提示することができる。

学士（美学）

[美学美術史学専攻領域]

学士（美学）の学位取得をめざすにあたり、卒業時に学部生が身につけるべき能力として以下の諸点を重点項目とする。学則に定める卒業要件を満たしたうえで、卒業論文の内容・形式が学問的に適正と認められた学生を、これらの能力を身につけた者と認め、学士（美学）の学位を授与する。

1. 卒業論文の担当教員の指導のもとで、適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆できる。またそのために、研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる。
2. 美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につけている。
3. 芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につけている。
4. 美学や各芸術分野についての文献講読を通して、基本的な外国語・日本語（古典）の読解力を身につけている。

以上の能力を身につけていることにより、優れたコミュニケーション能力を有し、人間を尊重し、自らと他者を理解することによって多様な価値を認める深い人間性を身につけているとし、これにより、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会の各方面に貢献できる人材とする。

また、卒業論文（卒業試験）は文学部共通の項目に加え、「卒業試験において、自身の卒論についての的確な要約を行うことができ、かつ対象とする専門分野についての一応の知識を有すると認められる」点も審査項目とする。

学士（図書館・情報学）

[図書館・情報学専攻領域]

学士（図書館・情報学）の学位を、以下のような資質と能力を有する学生に授与する。

個人や機関、団体などにより、生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面の基礎的な知識の学修を通じて、情報の視点から問題を発見し自ら解決できる総合的な能力を習得した者。

特に、社会のさまざまな場面で幅広く活躍できる人材として、次のような資質と能力を有する者。

- ・ 特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力
- ・ コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力
- ・ 情報専門職としての基盤形成
- ・ 日本語による専門文献の読解能力
- ・ 論理的な文章表現能力

学士（人間関係学）

[社会学専攻領域]

社会学専攻領域は、社会学および社会心理学、文化人類学の知識と方法ならびに問題意識を融合的に活用し、自立した市民および職業人として個人と社会のために協働できる人材の育成を理念として、以下のような卒業認定・学位授与の方針を定め、所定の要件を満たしたと認められる学生に、学士（人間関係学）の学位を授与する。

1. 社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解ができていること。
2. 社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果を理解していること。
3. 質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈ができること。
4. 人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探求し、その探求の過程と結果について適切に表現することができること。

[心理学専攻領域]

心理学専攻領域は、心や行動を科学的に捉え、社会における人々の行動や反応を客観的に把握し、その背後にある原因や機構を深く理解することのできる人材を育成することを理念としている。学生は心理学に関する科目を履修し、そこで得た知識を基に卒業論文の作成を行い、社会において役立つ計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を育む。これらの全過程を通して、社会における人間行動を洞察する力と、さまざまな場面で生じうる心や行動の問題に対処するための素養をもつ人間を育成する。

以上の方針に基づく要件を満たしたと認められる学生に、学士（人間関係学）の学位を授与する。

[教育学専攻領域]

教育学専攻領域では、「教育」という視座から人間と社会の諸問題を学問的に探究すること、学校教育というフォーマルな教育に必ずしも限定されない空間、時間、人間の「教育」問題を問い直すことを理念として掲げ、これらの理念に基づいた内容を扱っている。

教育学専攻領域では、教育学に関する領域のテーマで卒業論文を執筆・提出し口頭試問に合格した学生に対し、下記の能力があるものと認め、学士（人間関係学）の学位を授与する。

1. 教育に関する諸問題を多角的に探究するための基礎教養として、人文科学・社会科学・自然科学に関する基本的知識と、海外の様々な学問的知見に学ぶために必要な語学力を身につけている。
2. 教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野としての教育哲学、教育史、比較教育学、教育心理学の基本的知識を獲得している。
3. 教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論（哲学や歴史学の方法論から自然科学の方法論に至る多彩なアプローチ）の基礎を身につけている。
4. 「教育」の問題について考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、それに対する首尾一貫した解答を提示することができる。

[人間科学専攻領域]

人間科学専攻領域では、心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の知識および方法論を習得しながら、人間についての総合的・多元的な理解を行い、現代社会における人間・社会・文化に関するさまざまな問題を分析・解決できる人材を育成することを理念とし、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

1. 心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を習得していること。
2. 人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を習得していること。
3. 分析結果をわかりやすく他者に説明・提示するプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を習得していること。